

事務事業名	森林整備事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	産業経済部	農林課	林務係	連絡先	405	

政策番号	04	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高				
		基本計画①	01	産業振興ビジョン	#N/A								
		基本計画②	01	産業振興ビジョン	#N/A								
		実行計画	02	林業振興ビジョン	0201	多様な森林整備及び環境保全の推進							
予 算 事 業 名	森林整備事業			会計コード	01	款	06	項	02	目	03	事業	01
事務事業の概要	国内産の木材需要の低迷が続く中、国県の補助対象となった事業のうち対象となるものに市独自の嵩上げ補助を行い、森林所有者や林業事業者の負担軽減を図ることで森林の整備（間伐等）を促進しています。 ・森林造成事業：県の補助（国県補助）対象となった森林に対し除間伐25%、搬出間伐28%以内、森林税を使用した里山整備9～10%の市の嵩上げ補助 ・県単間伐事業：自力により実施した間伐等に対し市の嵩上げ補助30%、地域住民が自ら作業を行う森林の景観等に配慮した修景林間整備を森林税を活用し実施しています。												
現状と背景	木材需要の低迷により、森林保全への意識が薄れ、森林整備が進まず放置森林化した森林が増えてきた。しかし、これらの森林は水源の涵養、防災、多様な生態系の維持など公益的機能を有している。これら公益的機能を保持すること、また向上させるために、間伐を中心とした健全な森林作りが重要な課題となっているから。												
目的	受益者	森林所有者、林業事業者及び流域住民											
	対象	・森林所有者より委託を受けて徐間伐・枝打ち等の森林整備を行おうとする、又は行った事業主体（森林組合等） ・自力により間伐・枝打ち等の森林整備を行おうとする、又は行った森林所有者											
L	意 図	放置化され荒廃した森林の整備が行われ、公益的機能が十分に発揮できる健全な森林状態になっていること											
	手段・方法	森林組合等の事業主体及び森林所有者に対し、積極的に間伐推進に関する情報提供を行うと共に、森林簿や現況を参考に森林造成事業に係る計画の作成支援を行う。											
N	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
		1	森林整備及び森林環境整備に関する情報の提供	地区説明等実施回数（5年間累計）	回	大規模に間伐等の整備を実施する団体への説明に限り 年間3回	15						
		2	森林及び木材の利活用に関する研究会等の実施	研究会等の実施回数（5年間累計）	回	年間2回	10						
	3												
変更履歴													
成果指標	成果	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
	1	森林整備及び森林環境整備実施面積	森林整備実施面積（5年間累計）	ha	当年度森林整備目標面積（林業振興ビジョン130ha）	650							
	2												
変更履歴													

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	15,848,319	26,323,720	32,412,000			
	財源内訳	円						
	国庫支出金	円						
	県支出金	円	1,785,000	10,142,000	3,613,000			
	地方債	円						
	その他特定財源	円		8,818,000	18,700,000			
	一般財源	円	14,063,319	7,363,720	10,099,000			
	活動指標	地区説明等実施回数（5年間累計）	目標	回	3	3	3	
			実績	回	0	3		
		達成率	%	0.00	100.00	-	-	
		研究会等の実施回数（5年間累計）	目標	回	2	2	2	
			実績	回	1	0		
達成率		%	50.00	0.00	-	-		
—	目標	—						
	実績	—						
達成率	%	-	-	-	-			
成果指標	森林整備実施面積（5年間累計）	目標	ha	130	130	130		
		実績	ha	103	80			
	達成率	%	79.01	61.54	-	-		
	—	目標	—					
実績	—							
達成率	%	-	-	-	-			
備 考								

事務事業名		森林整備事業		事業期間	～	年度		係内番号	04	
担当部署		産業経済部 農林課		林務係		連絡先	405			
事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度				
	(成果) 変果動指要標因分(析)	年間の目標として、搬出間伐、切捨て間伐及び森林の環境整備を併せ年間130haを目標としたが、今年度は全ての事業を併せ103haの整備が完了した。	目標値130haに対し、今年度は、搬出間伐、切捨て間伐及び森林の環境整備を併せて80haの整備が完了した。							
価値	総合評価	林業振興ビジョンにも掲げた新規の森林環境整備の実施一年目であったが、地域の協力もありほぼ予定数量が実施でき、主に道路沿線の見通しの悪かった森林が地域の力により解消することができている。	森林環境整備が始まって2年目となるが、今年度は要望箇所が少なく、予定量の実施ができなかった。また、昨年敷払い等を実施した区域で、引き続き整備後の現状維持のための作業が行われたところも多く、今後整備箇所が増えることで市内の森林景観も良くなっていくと考えられる。							
	課題	敷払い等の森林環境整備を実施した区域については、整備後の状態を継続維持していくことが重要と考えられるため、今後、森林所有者の意識改革が課題と言える。 個人有林の未整備箇所の積極的な整備の推進が課題	昨年と比べ森林環境整備の要望量が減少したが、団体の代表者が変わった団体において新しい代表者が制度を知らなかったということが多かったため、制度の認知度をもっと上げることが課題となる。							
改革	翌々年度方向性	成果 現状維持	現状維持							
	コスト	現状維持	現状維持							
改善の方向性	改善の方向性	間伐等森林整備は昨年度から実施に向けた準備を行っていた地域が複数個所あったことから、今年度は整備を実施することができた。また、今年度は、新規事業の森林環境整備(県の森林税を活用した修景林間整備)が地域に根付き森林に対し意識の向上に繋がったと考える。今後この事業を継続して行っていくとともに、間伐が必要な地域へ積極的に出向き更なる整備の推進に努める。	昨年森林環境整備を行った場所について、継続的な下草刈り等を団体によって行ってもらえ、今年度実施した場所と併せてさらに市内の整備が進んだ。今後継続して事業を実施していき、併せて広報を行っていくことで更なる意識の向上及び森林整備の推進に努める。							
	策び容									
作成担当者		鎌倉 亮		清水 康志						
最終評価責任者		宮坂 智一		保科 慎一						
最終評価年月日		令和元年5月17日		2020年6月26日						

事務事業名	森林保全管理事業		事業期間	2018	～	2022	年度	係内番号	01
担当部署	産業経済部	農林課	林務係					連絡先	405

政策番号	04	基本計画①	01	産業振興ビジョン	#N/A	実施の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中					
		基本計画②	01	産業振興ビジョン	#N/A								
		実行計画	02	林業振興ビジョン	0201				多様な森林整備及び環境保全の推進				
		予 算 事 業 名		森林保全管理事業					会計コード	01	款	06	項
事務事業の概要		茅野市において森林は市土の約4分の3となる面積を占め、その持つ機能は林産材の生産にとどまらず市域の保全、水資源の涵養、保健休養といった多岐にわたっています。これら多面的な機能を有する森林を保全し、もって持続可能な形で継承するために行われる活動のうち、総務的な分野を担う事業です。											
現状と背景		森林を適切に保全・管理し、その有する多面的機能を発揮することは、市域全体にその便益をもたらすことになるため											
目的	対象	受益者	市民・滞在者										
	対象	対象	森林保全巡視員、松くい虫監視員といった個人及び林業振興会等の団体並びにみどりの少年団等をはじめとする児童生徒及び事業に関係する市民										
手段・方法	意	意	森林に異常が発生した場合早期発見により対処し、被害が発生していない状態。間伐等の整備が行われ森林の持つ多面的機能が発揮されている状態										
	方法	方法	・松くい虫監視作業員、森林保全巡視員には期間を限って活動に応じた賃金を支払い、巡視を行っていただく方法。クマ対策員とは委託契約を結び、捕獲された場合には放獣に係る費用を負担する方法。また林業振興会や治山協会へは負担金を支払い、活動に応じた支援をいただく方法を通じて、目的の実現を図っています。また、森林資源として産出される間伐材の有効利用策として挙げられるペレット材の消費拡大を図り、もって持続可能な森林づくりを推進します。										
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		1	松くい虫監視、森林保全巡視	巡視回数 (5年間累計)	回	2人が5月～10月の間で月1～2回 2人×6月×1.5回×5年				90			
		2	ペレットストーブ導入支援	補助対象件数 (5年間累計)	件	近年の実績で10件前後 10件×5年				50			
	3												
成果指標	変更履歴												
	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
	1	森林に松くい虫による被害が無い	被害の無い森林面積率	%	(全森林面積-被害面積)/全森林面積				100				
2	県産材ペレットの消費拡大	ペレット消費量 (5年間累計)	kg	ペレットストーブ導入補助に伴う年間目標 使用量800kg×10件×5年				40,000					
変更履歴													

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	5,062,778	4,860,526	5,722,000			
	財源内訳	円						
	国庫支出金	円						
	県支出金	円	824,250	597,750	827,000			
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	4,238,528	4,262,776	4,895,000			
	活動指標	巡視回数 (5年間累計)	目標	回	18	18	18	
			実績	回	22	33		
達成率			%	122.22	183.33	-	-	
補助対象件数 (5年間累計)		目標	件	10	10	10		
		実績	件	11	8			
		達成率	%	110.00	80.00	-	-	
-	目標	-						
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-		
成果指標	被害の無い森林面積率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	100	100			
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	
	ペレット消費量 (5年間累計)	目標	kg	8,000	8,000	8,000		
		実績	kg	8,800	9,085			
		達成率	%	110.00	113.56	-	-	
備考								

事務事業名	森林保全管理事業		事業期間	2018	～	2022	年度	係内番号	01
担当部署	産業経済部	農林課	林務係				連絡先	405	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	～ 析	定期的な森林の巡視を行ったことで、松くい虫による被害防止に繋がっている。 間伐材から作る木質ペレットの消費量は、1件の補助に対し800kgの消費を目標としているが今年度は県からの追加配当があり11件補助することができた。	今年度松くい虫発生予察調査の調査機を1基増やしたことで、より松くい虫被害の拡大防止につながった。ペレットストーブの補助に関して、今年も県からの追加配当があり、10件分の補助枠をもらったが、設置希望者が少なく、8件分の補助にとどまった。		
総合評価	成果	巡視員による森林の巡視のほか、誘引器による害虫の有無の確認、また市民の方の監視など多方面での監視により松くい虫被害が防止できている。 ペレットストーブの利用者が増加することで地元間伐材の地産地消サイクルができつつある。	昨年同様巡視員による森林の巡視、誘引器による調査により、松くい虫の被害防止対策を行った。また、今年度は市民の方からの不審枯れマツに関する連絡が8件もあり、市民の松くい虫に関する関心の高まりが防除体制の強化につながった。 ペレットストーブ購入補助により、さらにペレットストーブの利用者が増えた。これにより県産材の利用促進につながった。			
	課題	松くい虫による被害が市内に発生した際の巡視頻度(回数)は今後検討が必要	ペレットストーブ導入者の減少に当たり、今後は利用者増大に向けた検討が必要			
改革	翌々年度方向性	成果 現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性	改及成果	改及成果			
策び容	策び容	改及成果	改及成果			
作成担当者	鎌倉 亮	清水 康志				
最終評価責任者	宮坂 智一	保科 慎一				
最終評価年月日	令和元年5月17日	2020年6月26日				